

平成30年度 佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価報告書に対する意見について

1 佐久市総合計画審議会における審議の概要

総合計画審議会第1部会

開催日時	令和元年7月10日（水）午後1時30分から
審議内容	基本目標④について

総合計画審議会第2部会

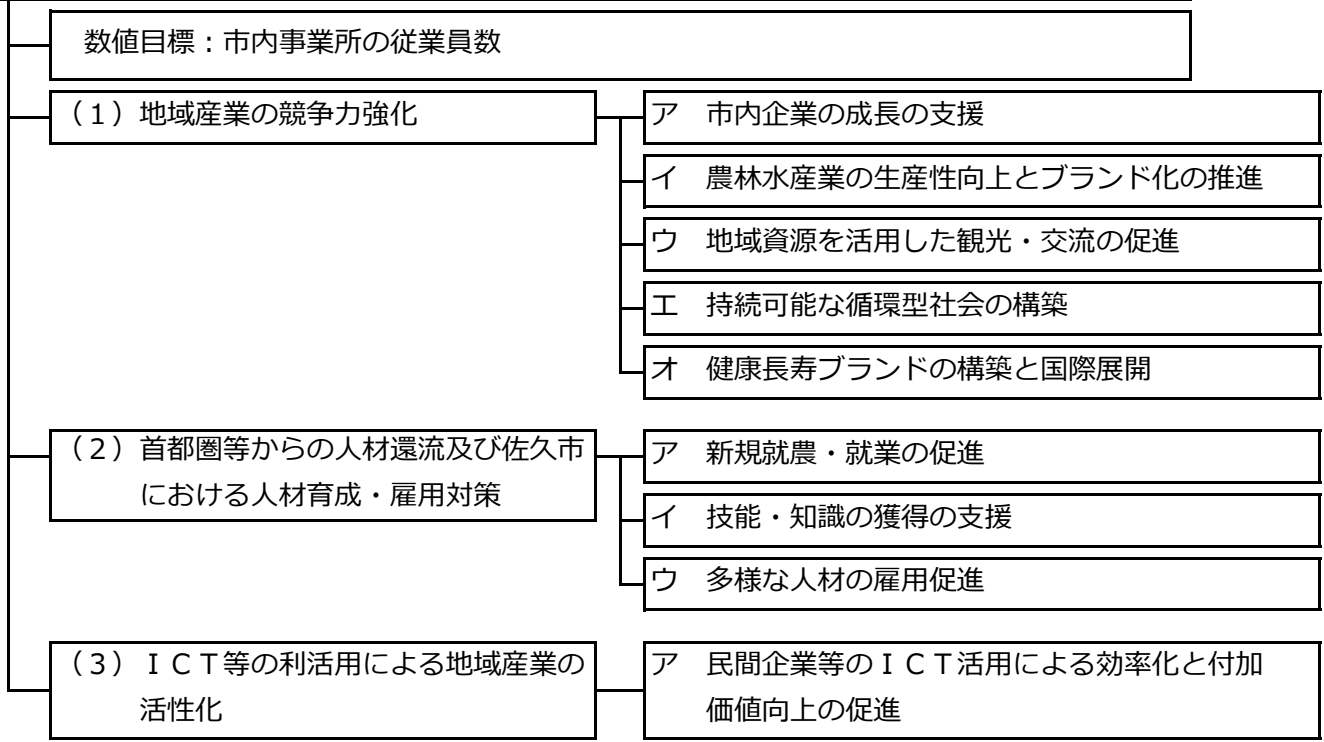
開催日時	令和元年7月9日（火）午後3時から
審議内容	基本目標①、②、推進交付金活用事業について

総合計画審議会第3部会

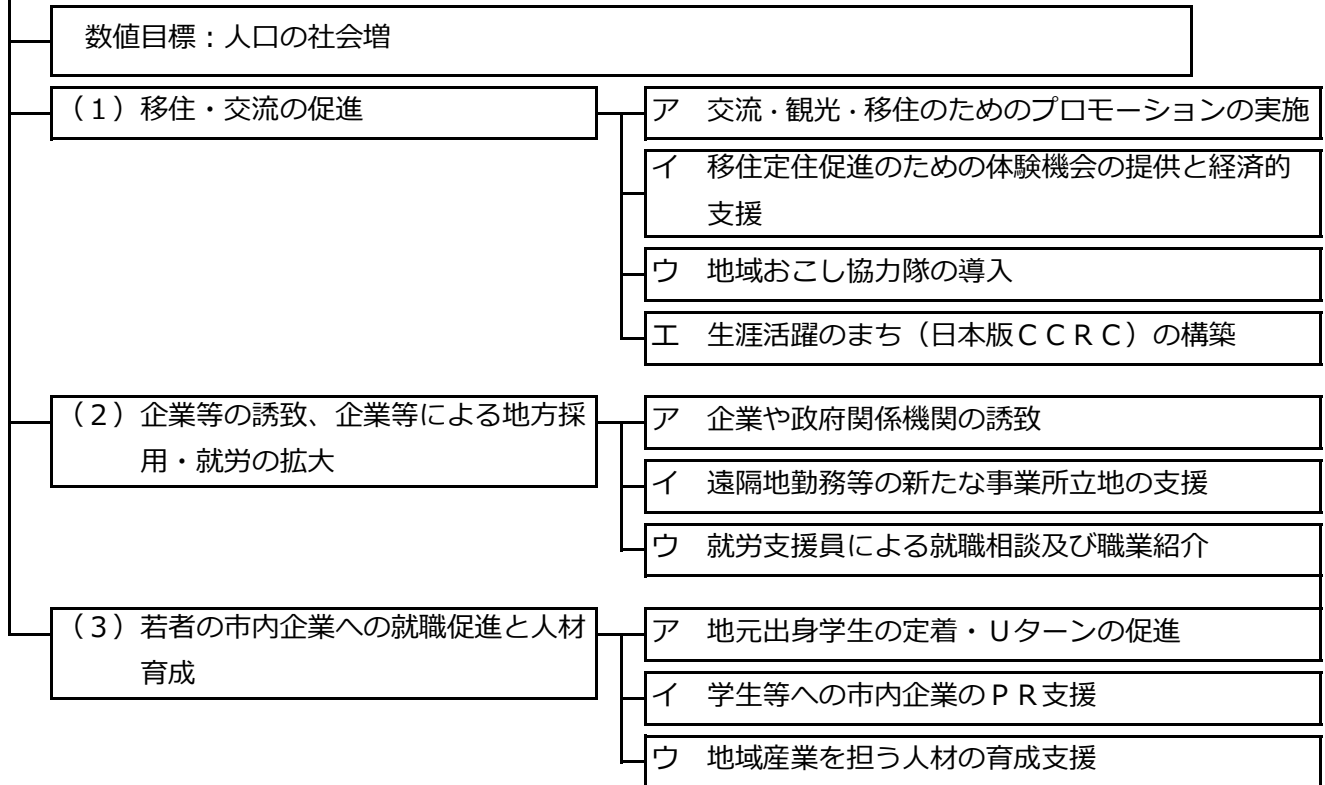
開催日時	令和元年7月9日（火）午後1時30分から
審議内容	基本目標③について

2 佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略の構成

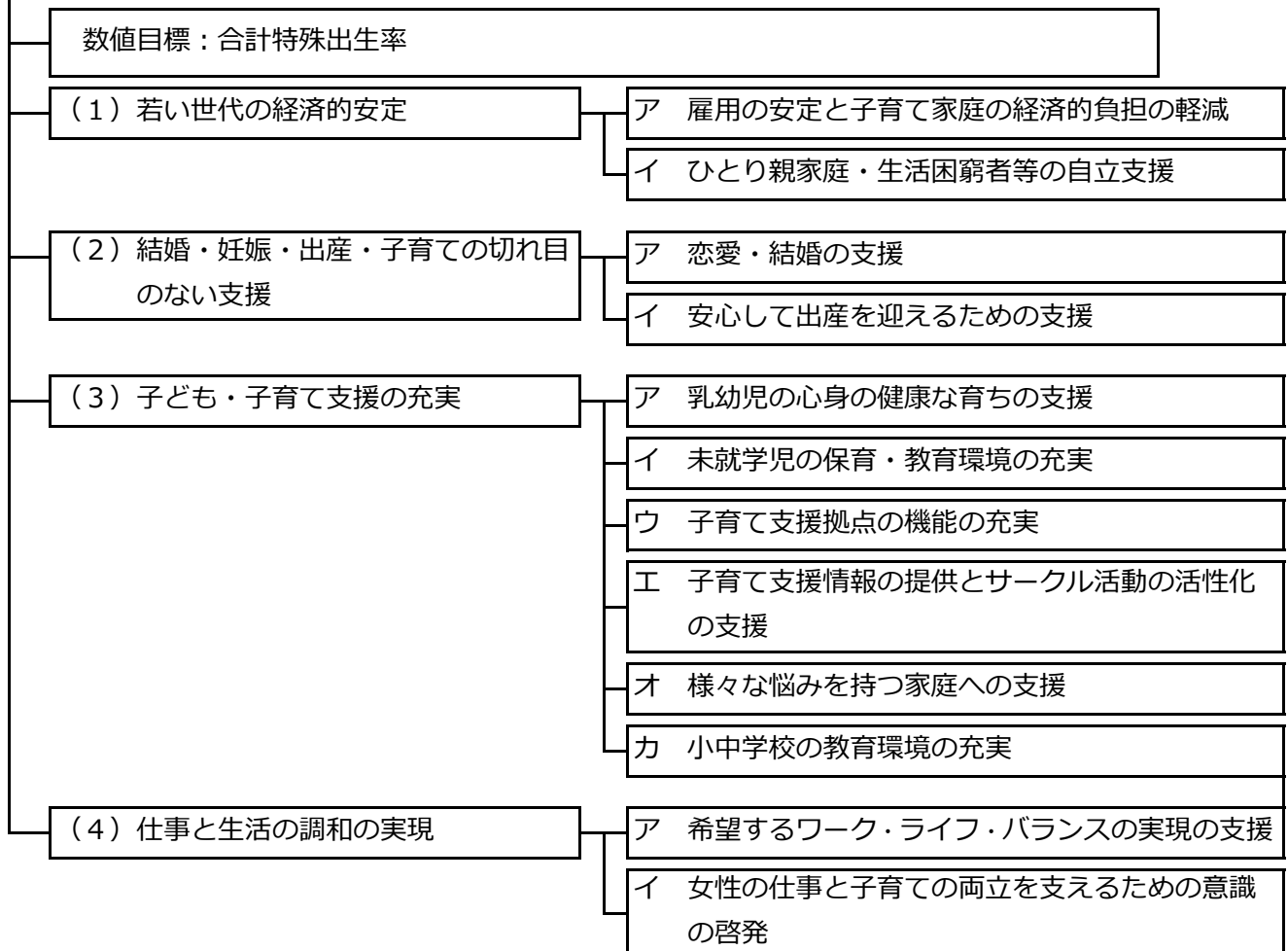
基本目標① 安心して働き続けることができる佐久市における「しごと」の創生



基本目標② 多くの人にも選ばれることができる佐久市における「ひと」の創生



基本目標③ 安心して結婚し、子どもを育てることができる佐久市における「ひと」の創生



基本目標④ 安心して暮らし続けることができる佐久市における「まち」の創生

数値目標：「佐久市は住みやすい」と回答する人の割合

(1) 持続可能な経済・生活圏の形成

ア 地域の特徴を生かした経済・生活の拠点の形成

イ 地域交通ネットワークの整備

ウ 安心して暮らすことのできる保健・医療・福祉体制の構築

エ 広域的な連携の推進

(2) 人口減少を踏まえた既存ストックのマネジメント強化

ア 公共施設等の適正管理と有効活用

イ 空き家等の利活用

(3) 住民が地域防災・防犯の担い手となる環境の確保

ア ICT等を活用した災害対策の推進

イ 自主的な防災・消防活動への支援

ウ 防犯対策の推進

(4) ふるさとづくりの推進

ア ふるさとと世界を知る子どもの育成

イ 生涯学習環境の整備と活動の促進

平成30年度地方創生関係交付金事業の実施結果

地方創生推進交付金活用事業

ア 交流と協働で織りなす夢をかなえるまち
コンパクトシティ臼田とCCRC事業の構築

イ ジャパンブランド「健康長寿」推進事業
～"SAKU Health-care model"の構築・展開
を目指して～

3 部会意見等

基本目標① 安心して働き続けることができる佐久市における「しごと」の創生	
数値目標：市内事業所の従業員数	
	P.5
意見等	医療・介護職の従業員数が増加しているが、重労働であるため、やりがい・使命感を持って働き続けられるよう行政からも支援されたい。
	介護業界の人材不足に関して、介護福祉士等の養成が急務となるため、臼田の小学校統合にあたって廃校となる校舎を養成のための専門学校として活用するなど有効利用を検討されたい。
	テレワークに関する制度化が進んだことで、こういった働き方に関心をもつ企業が今後増加していくと思う。テレワーク拠点施設としての小学校跡地の活用なども検討されたい。
(1) 地域産業の競争力強化 - ア 市内企業の成長の支援	
	P.5
意見等	産業支援センターによる支援事業に関して、佐久商工会議所だけでなく、他の商工会でも活用されているので、引き続き推進されたい。
(1) 地域産業の競争力強化 - イ 農林水産業の生産性向上とブランド化の推進	
	P.6
意見等	鮎養殖業は、餌代の高騰がコスト面でのネックとなっている等、儲からないという理由が一因となり、担い手が減少し続けている。こういった視点を踏まえ、振興に向けた検討を進められたい。
	農業者自身が商品（農産物）の値段を決められないことが所得の増えない要因になっていると思うので、掘り下げて検討し、農業の魅力の創出につなげることで後継者不足の問題の解決に努められたい。
(2) 首都圏等からの人材還流及び佐久市における人材育成・雇用対策 - イ 技能・知識の獲得の支援	
	P.13
意見等	資格取得支援事業の周知が不足していると思う。建設業等において、掘り起しができていないニーズはまだあると思う。商業団体や建設業者、介護事業者等にヒアリングを行うなどにより、具体的なニーズの把握に努められたい。
(2) 首都圏等からの人材還流及び佐久市における人材育成・雇用対策 - ウ 多様な人材の雇用促進	
	P.14
意見等	障がい者実雇用率は「努力を要する」結果となっているが、多様な人材の雇用促進が進んでいるまちは「選ばれるまち」として捉えられるものであるから、注目度が高い項目であることを考慮しつつ、対策を検討されたい。

基本目標② 多くの人に選ばれることができる佐久市における「ひと」の創生

数値目標：人口の社会増

P.16

意見等

今後も引き続き施策の充実に努められたい。

(3) 若者の市内企業への就職促進と人材育成 - イ 学生等への市内企業のPR支援

P.21

意見等

首都圏等における学生向け市内企業のPRイベントについて、参加団体数は増加傾向にある一方で、イベント時には中小企業にも学生の関心が集まるものの、早い段階での内定辞退も顕著で人材の確保が厳しいという現状があるため、官民協働で対策を検討されたい。

都会暮らしに憧れ上京した場合、そのまま都会の企業へ就職するケースが多く見られるが、佐久へ帰ってくる若者も一定数いる中で近年は地元志向の若者（特に男性）も増加傾向にあると感じるため、引き続きPR活動に取り組みながら、UIJターン就職の促進を進められたい。

基本目標③ 安心して結婚し、子どもを育てることができる佐久市における「ひと」の創生

数値目標：合計特殊出生率

P.23

意見等

今後も引き続き施策の充実に努められたい。

(1) 若い世代の経済的安定 - イ ひとり親家庭・生活困窮者等の自立支援

P.24

意見等

ひとり親家庭・生活困窮者等の自立支援を行っていることについて、民生委員からも周知を図っているところではあるが、対象者本人が支援を受けることに抵抗をもっているケースが多く、広報や訪問による周知が支援制度の活用にうまくつながっていない実情があるため、社会的包摂の推進に向けて政策を推進されたい。

(2) 結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援 - ア 恋愛・結婚の支援

P.25

意見等

婚活イベントについて、イベント参加者を確保し続けられるよう、再婚希望者にターゲットを広げるなどの工夫を取り入れながら企画推進されたい。

(3) 子ども・子育て支援の充実 - オ 様々な悩みを持つ家庭への支援		P.32
意見等	子育て支援施策における「利用者支援事業」という事業名称がわかりづらいとの指摘を受け、昨年度から「子育てなんでも相談室」に変えたという事例について、市民に事業や施策を認識・理解して活用してもらうためには、名称のわかりやすさを高めるための事業名称の改善といった取組は重要だと思うので、引き続き工夫して推進されたい。	
	『子ども特別対策推進員による家庭児童相談のうち関係機関と連携して対応した数の割合』について、報告書の中で「軽微な相談内容で…（中略）…他機関との連携を必要としなかった相談」という記述があるが、昨今のメディア情報を見る中では学校と児童相談所の連携不足によって大きな問題が発生するケース等が散見されるため、軽微なものであっても関係機関との連携を図る体制を整備されたい。	
(4) 仕事と生活の調和の実現 - イ 女性の仕事と子育ての両立を支えるための意識の啓発		P.34
意見等	『男女共同参画推進事業者表彰件数』に関して、女性が佐久市で就職先を探すに当たり、こうした表彰の事例を公表すること等は、就職支援のひとつとなるため、引き続き取組を推進されたい。	

基本目標④ 安心して暮らし続けることができる佐久市における「まち」の創生

数値目標：「佐久市は住みやすい」と回答する人の割合		P.36
意見等	住みよいまちづくりに関して、「まち」エリアと比較すれば中山間地域の開発の優先度が下がってしまうことや人口減少に伴って市の財源が縮小していくことは理解できるが、市内には「まち」エリアよりも中山間エリアの方が圧倒的に多いため、中山間地域の整備は今後も大きな課題になることを踏まえ、施策の充実に努められたい。	
(1) 持続可能な経済・生活圏の形成 - イ 地域交通ネットワークの整備		P.37
意見等	デマンドタクシーには利用可能曜日が限定されていることや通院・買い物等で利用した場合の復路利用が不便といった課題があることを踏まえ、引き続き市民が使い易い地域交通ネットワークの整備を進められたい。	
(1) 持続可能な経済・生活圏の形成 - ウ 安心して暮らすことのできる保健・医療・福祉体制の構築		P.38
意見等	人口が増えることは望ましいが、10年、20年先に社会の高齢化が進んだ際、介護が必要な年代層が過多になることで医療・福祉サービスを受けられる体制が崩れないか、財政的・体制的に不安があるので、将来を見据えた施策の推進を図られたい。	

(3) 住民が地域防災・防犯の担い手となる環境の確保 - イ 自主的な防災・消防活動への支援		P.42
意見等	日中の災害等に対応できるよう、女性の力を活用した組織を構築したいと考えて地域主体で検討を進めているところがあるので、必要に応じて支援を図られたい。	
(3) 住民が地域防災・防犯の担い手となる環境の確保 - ウ 防犯対策の推進		P.43
意見等	夜間の防犯対策について、特に学生等がいる家庭においては街灯の設置状況に不安があるとのことから、防犯灯設置設置状況が適切であるか検討の上、引き続き防犯対策を推進されたい。	
意見等	街灯のLED化が進んだことで、街路の明るさが確保された上にこれまで頻繁にあった区毎の電球交換作業が無くなり、とても効果があったということだが、駒場公園等多くの児童が利用していてLED化が済んでいないところについては、引き続き作業を推進されたい。	
(4) ふるさとづくりの推進 - イ 生涯学習環境の整備と活動の促進		P.44
意見等	『高齢者大学・大学院の開催実績』について、参加者数を見ると実績が出ているが、講座終了後の参加者はどのように活躍されているのか周知が不足していると感じるので、本制度のさらなる推進のために参加者が経験したことや学んだことをPRする等の取組を推進されたい。	